新しいＷＣＳ用品種の現地栽培調査

畜産技術部（畜産試験場）
平成 21 年 8 月 4 日

７月 29 日に美祢市美東町において、近畿中国四国農業研究センターが開発した「中国飼１９８号」の現地栽培調査が近畿中国四国農業研究センターの職員により行われました。

この「中国飼１９８号」は、従前の稲発酵粗飼料（ＷＣＳ）用イネに比較して、穂が小さくモミも少なく、茎・葉に糖分を多く蓄える性質があり、乳酸発酵がおこりやすいことから保存性や品質の向上が図られ、乾物収量も多い事からＷＣＳに最適と考えられています。

農林総合技術センター畜産技術部では、近畿中国四国農業研究センターの依頼を受け、農事組合法人岩波ファームに依頼して 10 アール程度の栽培を行っています。

調査では、発育等は、まずまずの成績でしたが、葉色からもっと窒素分が必要かもしれないという示唆も受けました。

現地調査の後に、畜産技術部内で種々の意見交換を行いましたが、来年度以降についても、栽培規模を拡大し、経済性等の調査の依頼があり、センター農業技術部や地元農林事務所の協力を仰ぎながら、試験栽培を行う予定としています。

現地調査の様子